

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																											
専門学校麻生医療福祉 &観光カレッジ		平成28年3月4日	富田 博之	〒804-0092 福岡県北九州市戸畑区小芝3-3-1 (電話) 093-882-0001																											
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	麻生 健	〒804-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																											
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども保育科 平成30年度より「こども福祉科」から名称変更		平成22年文部科学省 告示第153号	—																										
学科の目的	短大(保育科)卒業に伴う保育士資格、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事任用資格の取得をめざす。実習第一のカリキュラムで現場で即戦力となる幼稚園教諭・保育士を養成するとともに、社会福祉受験資格を取得することにより、子どもから障がい者、高齢者まで福祉全般に対応できる人材を育成する。																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
3年	昼間	3145時間	1815時間	525時間	660時間	0時間	480時間																								
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
120人		31人	0人	3人	27人	30人																									
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度、確認テスト等の総合評価を行う。評定は、S・A・B・C・Dの5ランクとする。																										
長期休み	■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日			卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.各学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度																										
学支支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人、保護者への電話連絡や面談等を行う			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動等 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 保育園、幼稚園、障がい者施設等の社会福祉業界 ■就職指導内容 勤労観・職業観育成指導、業界研究指導、面接・履歴書等受験対策指導、ピアノ等実技試験対策指導。 ■卒業生数 16 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 : (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>19人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭</td> <td>①</td> <td>19人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士(要実務経験)</td> <td>②</td> <td>19人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>幼児体育指導者検定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	19人	19人	幼稚園教諭	①	19人	18人	社会福祉士(要実務経験)	②	19人	18人	社会福祉主事任用資格	③	19人	19人	幼児体育指導者検定	③	4人	4人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
保育士	①	19人	19人																												
幼稚園教諭	①	19人	18人																												
社会福祉士(要実務経験)	②	19人	18人																												
社会福祉主事任用資格	③	19人	19人																												
幼児体育指導者検定	③	4人	4人																												
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 2.6 % 平成29年4月1日時点において、在学者38名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者37名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 適性検査の実施、検査結果による面談、スクールカウンセラーの配置、クラス担任による定期ガイダンスや三者面談の実施																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災し進学が困難になったものを対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.asoiuku.ac.jp/amkc/subject/kdf/">http://www.asoiuku.ac.jp/amkc/subject/kdf/</a>																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

子ども福祉科のカリキュラムは幼稚園教諭二種免許、保育士資格、社会福祉主事任用資格および社会福祉士受験に必要な科目を履修することを基本に編成する。またそれぞれの資格取得には実習が必須とされるため、学校教育法に定める幼稚園、児童福祉法に定める保育園、厚生労働省が定める実習指導者要件を満たした施設等と連携し、現場実習を行う。実習先にいただいた評価や業界で仕事をされている兼任教員との情報交換、卒業生の就職先企業に対しお客様アンケートを実施したりすることにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによつて得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

主任等により主催されるカリキュラム会議は、教育課程編成委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
増田 吹子	久留米信愛短期大学 講師(日本乳幼児教育学会所属)	2018.4.1～2019.3.31(1年)	②
能美 和則	学校法人青山学園 青山幼稚園 理事長・園長	2018.4.1～2019.3.31(1年)	③
藤井 成樹	専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ こども保育科教務リーダー	2018.4.1～2019.3.31(1年)	
岩田佐知子	専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ こども保育科教務	2018.4.1～2019.3.31(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(毎年6月、11月)

(開催日時)

平成29年度

第1回 平成29年 6月22日 16:00～17:15

第2回 平成29年11月10日 16:00～17:30

平成30年度

第1回 平成30年 6月21日 16:15～17:00

第2回 平成30年11月 8日 16:00～17:00 (実施予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(いただいた意見)

1. 公務員講座は、必須にすると、不要と考えている学生には負担となるのではないかと選択にしてもよいのではないかと？
2. 選択コースについて、特に保育コースは担当教員の負担が大きくなるのではないかと？アクティブラーニングのような学生主体の学びの場を設定してもよいのではないかと？
3. 公務員講座は、本校だけの都合ではなく、連携校の都合も合わせて実施内容を検討しなければならないのではないかと？

(いただいた意見を踏まえた、変更内容)

1. こども保育科・保育コースについて、公務員講座は全員必須にせず、希望者のみの事由選択とする。
2. 選択コースについては、全てのコマで教員が指導するのではなく、ゼミ・グループ学修形式をとることを検討する。
3. 公務員講座については、麻生公務員専門学校北九州校の校長代行と相談した結果、2年次後期から高校生講座に参加するなど徐々に指導していくこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭二種免許、保育士資格および社会福祉士受験に必要な実習を行うため、学校教育法に定める幼稚園、児童福祉法に定める保育園、厚生労働省が定める実習指導者要件を満たした施設等と連携を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習実施前に本校教員と実習先の担当者として実習内容、実習期間、評価基準等について打ち合わせをする。実習期間中は、週に1回は巡回をし、学生の情報交換を行い、個々の学生の指導へつなげる。実習終了後、実習指導者からの評価に担当教員の評価を加味し、成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習(1年次分)	社会福祉施設で活躍されている専門職から福祉現場での実情や業務の講義、施設見学などを通し、社会福祉施設の業務の把握、利用者の方への理解を深め、福祉現場に対するイメージ化を図って行くことを目的とし、施設の実態等の知識を現場から学ぶ。	八幡東工芸者、いずみ園、インクル八千代、小倉南障害者地域活動センター、くすの園 計5園
教育実習 I	専門教育科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。このねらいを達成するために、見学・観察・参加実習を主とする実習を行う。	ひらばる幼稚園、聖ヶ丘幼稚園、済世第一幼稚園、浅川幼稚園、岡垣第一幼稚園、のびのび幼稚園、わしみね幼稚園、高見幼稚園、他14園
教育実習 II	教育実習 I での学びを基礎として、専門教育科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。このねらいを達成するために、観察・参加実習を主とする実習を行う。	浅川幼稚園、八幡南幼稚園、明泉幼稚園、ひのまる幼稚園、神理幼稚園、でんき幼稚園、もんじゅ幼稚園、明願寺幼稚園、他14園
保育実習 I (保育所)	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	広徳保育園、東保育所、葛原保育園、大蔵保育園、楠橋保育所、本庄西保育園、岡垣東部保育所、犀川のぞみ保育園、他12園
保育実習 I (施設)	保育実習 I (保育所)を基礎として、児童養護施設・障害者施設等での実習を行う。社会的養護や、障害者福祉施設のあり方について、保育士の始点から弁場での学びを深めて行く。	暁の鐘学園、門司ヶ関学園、天使育苗園、北九州乳児院、あすなる学園、ひびき学園。以上6園。

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。  
研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。  
専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。今後必要となる知識や技術と教員とのスキルを比較し、不足しているものを中心に研修計画を立てる。外部の教育機関が実施する研修または企業等から講師を招いての研修を受講する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

2017年度ソーシャルワーカー教育全国研修大会  
企業連携等：一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟  
日程：平成29年6月24日  
内容：社会福祉系授業におけるアクティブラーニングの具体的活用法  
対象：教員1名

##### 夏の実技講習会

企業連携等：株式会社学研教育みらい  
日程：平成29年8月2日  
内容：あそび歌、絵本、ダンス、パネルシアター  
対象：教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

発達障がいの理解について  
企業連携等：NPO法人発達障がい者就労支援ゆあしつぷ  
日程：平成29年4月27日  
内容：発達障がいに対する理解、事例を踏まえたワーク、社会に出るまでに習得させること  
対象：教員2名

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

第14回全国研修会in北九州  
企業連携等：一般社団法人日本保育保健協議会  
日程：平成30年5月27日  
内容：エビペンの使用方法等について、保育園における障害(事故)対応、熱誠痙攣の対応、子ども虐待医学と歯学から学ぶことができること、食物アレルギーを意識したアトピー性皮膚炎のスキンケア、子どもの正常発達について、食物アレルギーと環境要因アレルギー、について、保育士視点からの講義。  
対象：教員1名

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

発達障がいの理解～具体的対応と支援について～  
企業連携等：有吉祐睡眠クリニック  
日程：平成30年6月28日  
内容：発達障がいの基礎、発達障がい疑いの学生へ専門学校ができること、学生に対してどのような支援ができるか  
対象：教員1名

##### コーチング実践

企業連携等：組織デザイン・ラボ  
日程：平成30年8月30日 13:00～17:30  
目的：学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める  
内容：学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ  
対象：教員1名

##### インストラクショナルデザイン入門eラーニング講座

企業連携等：全国専門学校教育研究会  
日程：平成30年5月21日～6月20日  
内容：インストラクショナルデザインの概要、目標設定、課題分析、学習者の評価、授業計画、授業の評価について学ぶ  
対象：教員1名

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者の参画を得て、包括的・客観的に判定する事で、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また情報を公表する事により開かれた学校作りを行う。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5) 学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11) 国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

#### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

・社会活動として、小学校での音楽交流会、福祉施設慰問等を継続的に実施しているが、目的等が明確でないものがあるように思われるとの指摘をいただいた。そのため、これらの活動について、目的を明確にし、年間計画を立て取り組むようにした。

・実習生に特別な支援が必要な学生が増えてきているとの指摘をいただいた。そのため、特別な支援が必要な学生を、全教職員体勢での指導をできるよう、リストアップして情報を共有できるようにした。

・新人職員・実習生の課題として、記録物が苦手なものが多いとの指摘をいただいた。そのため、リメディアル教育の一環として、国語講座・コミュニケーション講座を実施・活用するようになった。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
青木 圭子	福岡県立折尾高等学校 校長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	高等学校教員
安部 久美子	ホテル・ブライダル科在校生保護者	2017.4.1～2019.3.31(2年)	保護者
井手 國昭	三六まちづくり協議会 会長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	地域住民
柿本 奈々	エアライン科卒業生	2018.4.1～2020.3.31(2年)	卒業生
今仁 優衣	子ども福祉科卒業生	2018.4.1～2020.3.31(2年)	卒業生
上田 恵理奈	医療秘書科卒業生	2018.4.1～2020.3.31(2年)	卒業生
小山 勇毅	医療法人今光会 今光ホームケアクリニック 事務長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者
沖田 由美子	レンタルブティック&ウエディング ウィズワタベ 代表取締役	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者
北島 武	新門司フェリーサービス株式会社 管理部部長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者
城田 浩太郎	介護福祉科卒業生	2018.4.1～2020.3.31(2年)	卒業生
竹之内 豊文	株式会社リーガロイヤルホテル小倉 副総支配人 グループサービスチーム担当部長 (兼)グループサービスチーム長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者
能美 和則	学校法人青山学園 青山幼稚園 理事長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者
永田 秀之	社会福祉法人 西日本至福会 総務課長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者
守田 昇平	医療法人医和基会 戸畑総合病院 事務次長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者
久本 二尊	株式会社スターフライヤー 執行役員 総務人事部長	2018.4.1～2020.3.31(2年)	企業・業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL:<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/>

公表時期:平成29年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供する事で、学校運営の透明性を図ると共に、本校に対する理解を深めて頂く事を目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、ASOの考え方
(2)各学科等の教育	学科コース一覧、国家資格・検定、就職情報、入学案内
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、部活動、サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧))

URL:<http://www.asoiuku.ac.jp/amkc/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こども保育科) 平成30年度  
 ※平成30年度入学生より、こども福祉科からこども保育科へ学科名変更

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			健康科学	健康や体力に関する知識や関心を高め、合理的な運動実践を習慣化するための方策を学ぶ。	1前	15		○			○		○		
○			英会話 I	保育園でも使うことができる初歩的な英会話について学ぶ。	1後	15		○			○		○		
○			情報処理入門 I	データと情報の違い、コンピュータの基本的な仕組み・概念について知る。	1後	15		○			○		○		
○			教育課程総論	幼稚園におけるカリキュラムについて学ぶ。	1後	30		○			○		○		
○			造形表現	幼児の造形教育に必要な絵画・立体造形・デザイン・色彩に関する基礎知識と表現技術を習得する。	1通	15				○	○			○	
○			社会的養護	養護についての考え方、児童の保護（衣食住）、指導、治療についての理論と実際を専門的に探求する。	1前	30		○			○			○	
○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基本的な概念の習得を図る。	1前	30		○			○			○	
○			教育方法論	「教育目的・目標」を達成するために、教育内容を正確に効果的に教え授ける方法について学ぶ。	1後	30		○			○			○	
○			教職概論	教師として教えることの意義、仕事や役割について、歴史・制度・実態などの理解を通し、学ぶ。	1前	30		○			○			○	
○			日本国憲法	日本国憲法について、誰に向けられたたものであり、何を定めているのかを学ぶ。	2前	30		○			○			○	
○			英会話 I (SC)	保育園でも使うことができる初歩的な英会話について学ぶ。	1前	15		○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			生涯スポーツ (SC)	各種スポーツ技能の向上を中核目標として、スポーツ文化が形成されてきた歴史的・風土的・社会的背景について理解を深める。	1後	15				○		○				
○			音楽（器楽・声楽） (SC)	保育者の音楽技術の習得や資質の向上を目指し、器楽（ピアノ）・声楽を学習する。	1後	15				○	△	○				
○			音楽表現 (SC)	子ども達に豊かな感性や表現力を身に付けさせるために、音楽の楽しさや、喜びを経験し、幼稚園 保育園で音楽活動を実践するために必要な知識、技能を習得する。	1後	15				○	△	○				
○			人間関係（指導法） (SC)	人間関係を豊かに育てる始点に加え、幼稚園の父母組織が実際に保育とどう関わっているか分析する。	1前	15			○			○				
○			健康（指導法） (SC)	人間の身体や健康、それに関わる環境について理解し、子どもの健康に必要な知識とその指導・援助の技術を習得する。	1前	15			○			○				
○			造形表現 (SC)	幼児の造形教育に必要な絵画・立体造形・デザイン・色彩に関する基礎知識と表現技術を習得する。	1前	15					○	○				
○			教育心理学 (SC)	心理学を演習を交えて学び、人とのコミュニケーションの取り方について学ぶ。(スクリング)	1後	15			○			○				
○			劇遊び（指導法） (SC)	様々な素材を使った幼児の表現活動を体験し、その楽しさを知るとともに、幼児にとっての表現活動の意味を理解し、保育現場での実践につなげてゆく力を養う。	1後	15			△		○	○				
○			情報処理入門 (SC)	コンピュータの発達過程や仕組みを学び、基本的な操作やネットワーク、アプリケーションソフトの利用をマスターする。	1後	15					○		○			
○			環境（指導法） (SC)	より良い環境を作ろうとする力を幼児の内面に総合的に育てて行くにはどうすればよいかを学ぶ。	1後	15			○			○				
○			言葉（指導法） (SC)	幼児期の言葉の発達段階について学び、話し言葉の獲得期の子どもへの留意点について実践的に学ぶ。	1後	15			○			○				
○			現代社会と福祉※「社会福祉」読み替え科目	社会福祉の基礎について学ぶ。	1通	60			○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			相談援助の理論と方法（1年次分）	相談援助のあり方の基本についての学ぶ。	1通	60		○			○			○	
○			障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者問題とその施策について理解し、障害者問題に対する問題点を考える	1後	30		○			○			○	
○			相談援助実習指導（1年次分）	障害者施設での相談援助実習に向けて、実習先の決定、利用者の方との関わり方、実習先での留意点等について学ぶ。	1通	60		○	△		○		○		
○			心理学理論と心理的支援	心理学の基礎を学び、人とのコミュニケーションの方法を学ぶ。	1後	30		○			○			○	
○			相談援助の基盤と専門職	社会福祉援助活動において活用される専門的援助技術を学ぶ。	1通	60		○			○			○	
○			高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉とその施策について理解し、真の長寿社会を築くためにはどうすれば良いかを学ぶ。	1通	60		○			○			○	
○			相談援助演習（1年次分）	ロールプレイングを交えながら、社会福祉士としての基礎・応用・実践についての知識・技術を学ぶ。	1通	60					○		○		
○			相談援助実習（1年次分）	障害者施設での実習で、社会福祉施設における利用者との関わり方や業務の実態について学ぶ。	1後	90					○		○	○	○
○			音楽 I	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。楽典の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1通	90					○	○		○	
○			保育実習指導	保育園実習に向けて、実習の基礎を学ぶ。	1通	60		○		△	○		○		
○			接遇マナー I	社会人として必要とされるマナーについて学ぶ。	1前	15					○		○		○
○			GCB I	「感謝と思いやり」（依存から自立へ）をテーマに、社会人としてのマナー及びビジネスマナーを学ぶ。	1前	15					○		○		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子どもの保健 I ①	胎児期から青年期までの心身の発達、小児の主な疾患と特徴を知り、疾病予防のための生活と環境について習得する。	2後	30		○		△	○			○	
○			子どもの食と栄養	栄養に関する基礎知識を学び、乳幼児の発達段階に応じた食事や集団給食について学ぶ。	2後	15		○			○				○
○			図画工作 II	幼児が本来持っている豊かなイメージや表現力・想像力を引き出し、造形表現に対して適切な援助を行える能力を養成する。	2通	15					○	○			○
○			家庭支援論	社会的な子育て課程支援が必要となった時代的背景とニーズ、子育て支援体制の現状について学ぶ。	2前	30		○			○				○
○			教育相談	カウンセリングの基礎知識を学び、子供や保護者に対する基本的援助の方法を学ぶ。	2前	30		○			○				○
○			乳幼児心理学	乳幼児を対象とする保育・幼児教育に対して、発達心理学の知見を深める。	2後	15		○			○				○
○			障害児保育	障害児の発達の变化を促す保育的援助について学ぶ。	2前	15		○			○				○
○			保育原理	乳幼児の特性や保育思想・制度の発達、現在の保育の課題など、基礎的な知識を培い、自分なりの保育観を持つ。	1前	30		○			○			○	
○			保育実習 I 事前事後指導 (保育所) (SC)	保育実習の目的の達成をより確かなものにするために、これまでの学びをより実践的な観点から集約し、保育実習に向けた学びを行う。	2前	15		○			○				○
○			保育実習 I 事前事後指導 (施設) (SC)	保育実習の目的の達成をより確かなものにするために、これまでの学びをより実践的な観点から集約し、保育実習に向けた学びを行う。	2後	15		○			○				○
○			保育相談支援 (SC)	保育士として、子ども達だけではなく保護者に対する支援についても学ぶ。(スクリング)	2前	15		○			○				○
○			教育実習事前事後指導 (SC)	教育実習の目的の達成をより確かなものにするために、これまでの学びをより実践的な観点から集約し、教育実習に向けた学びを行う。	2前	15		○			○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子どもの食と栄養 (SC)	栄養に関する基礎知識を学び、乳幼児の発達段階に応じた食事や集団給食について実技を通して学ぶ。	2後	15		○		△	○			○	
○			幼児体育 (SC)	幼児体育指導を実践する上で必要な技術と教材作りに関する実践的な知識・技能を修得する。	2後	15				○		○			○
○			音楽 I (器楽・声楽) (SC)	保育者の音楽技術の習得や資質の向上を目指し、器楽 (ピアノ)・声楽を学習する。(スクリング)	2後	15				○	○	△			○
○			図画工作 (SC)	持っている豊かなイメージや表現力・想像力を引き出し、造形表現に対して適切な援助を行える能力を養成する。	2前	15				○	○				○
○			障害児保育 (SC)	障害児の発達の变化を促す保育的援助について学ぶ。	2前	15		○			○				○
○			乳幼児心理学 (SC)	乳幼児を対象とする保育・幼児教育に対して、発達心理学の知見を深める。	2前	15		○		△	○				○
○			言語表現 (SC)	乳幼児期の言葉の発達段階について学び、話し言葉の獲得期の子どもへの留意点について実践的に学ぶ。	2前	15		○			○				○
○			社会的養護内容 (SC)	各種児童施設における目的と機能、用語プログラムの展開、児童処遇の実際を学ぶ。	2前	15		○			○				○
○			保育内容総論 (SC)	遊びと生活を通して指導する保育の実際と保育の全体的な構造を学ぶ。	2後	15		○			○				○
○			教育実習 I	幼稚園での実習を行う。	2前	80					○		○	○	○
○			保育実習 I (保育所)	保育所での実習を行う。	2後	80					○		○	○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度※「児童家庭福祉」読み替え科目	現在の児童福祉について基本的・体系的に学習し、児童福祉実践者としての知識を身につける。	2前	30		○			○				○
○			相談援助の理論と方法（2年次分）	相談援助のあり方の基本について学ぶ。	2通	60		○			○				○
○			福祉サービスの組織と経営	顧客満足から顧客感動へ。利用者本意の福祉サービス提供のあり方について学ぶ。	2後	30		○			○				○
○			相談援助実習指導（2年次分）	障害者施設の実習に向け、個別支援計画のあり方、作成方法などを学ぶ。	2前	30		○	△		○				○
○			相談援助演習（2年次分）	ロールプレイングを交えながら、社会福祉士としての基礎・応用・実践についての知識・技術を学ぶ。	2通	60			○		○				○
○			地域福祉の理論と方法	今後ますます重要視される、コミュニティワークなど地域福祉のあり方について学ぶ。	2通	60		○			○				○
○			低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者の方が社会的に自立して生活できるための生活保護制度について学ぶ。	2前	30		○			○				○
○			権利擁護と成年後見制度	権利擁護制度・成年後見制度について、福祉を必要としている人の人権等を交えて学ぶ。	2後	30		○			○				○
○			相談援助実習（2年次分）	障害者施設での実習で、主に個別支援計画の作成など、利用者本意のサービスのあり方について学ぶ。	2前	90					○	○	○		○
○			音楽Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。楽典の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	2通	90					○	○			○
○			パソコン実習	クラス便りや献立表、住所録が作れる操作を身に付ける。	2通	45					○	○			○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			GCB II	「志」（自立から相互依存へ）をテーマに、社会人としてのマナー及びビジネスマナーを学ぶ。	2後	15			○		○		○		
○			教育実習指導	幼稚園実習に向けた指導を行う。	2通	60		○		△	○		○		
		○	公務員講座A (自由選択)	保育士公務員試験対策に関する指導を行う。	2後	15		○				○		○	
○			児童文化	子どもの遊びの重要性を認識し、様々な児童文化について把握し、保育現場で実践的な指導のあり方について学ぶ。	3後	15		○			○				○
○			子どもの保健 I ②	胎児期から青年期までの心身の発達、小児の主な疾患と特徴を知り、疾病予防のための生活と環境について習得する。	3前	30		○	△		○				○
○			発達心理学	人間は障害発達であることを基本において、乳幼児・児童・青年・高齢者までの心理について考える。	3前	30		○			○				○
○			保育・教育実践演習	保育現場で活用できることについてテーマを決め、研究し、知識と技術の向上を図る。	3後	15			○		○	△			○
○			乳児保育	未満児の保育について、制度と現状、発達課題、保育内容、保育実践方法を学習し知識と技能の基礎を身につける。	3前	15		○			○				○
○			子どもの保健 II (SC)	子どもの保健 I を基礎にさらに知識を深める。	3前	15		○		△	○				○
○			児童文化 (SC)	子どもの遊びの重要性を認識し、様々な児童文化について把握し、保育現場で実践的な指導のあり方について学ぶ。	3後	15			○		○				○
○			乳児保育 (SC)	未満児の保育について、制度と現状、発達課題、保育内容、保育実践方法を学習し知識と技能の基礎を身につける。	3前	15		○			○				○
	○		保育実習事前 事後指導 II (SC) (※A)	児童養護施設等での実習前後の指導を行う。（「保育実習事前事後指導 III」と選択）	3前	15		○			○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		保育実習事前事後指導Ⅲ(SC) (※A)	保育園での実習(2回目)前後の指導を行う。(「保育実習事前事後指導Ⅲ」との選択)	3前	15		○			○			○	
○			相談援助(SC)	保育士を目指す者に必要とされる社会福祉援助活動・技術の基礎を習得する。(スクーリング)	3前	15		○			○				○
○			保育・教育実践演習(SC)	保育現場で活用できることについてテーマを決め、研究し、知識と技術の向上を図る。(スクーリング)	3後	15			○		○	△			○
○			保育実習Ⅰ(施設)	児童養護施設(保育園以外の児童福祉施設)等での実習を行う。	3前	80				○		○	○	○	○
	○		保育実習Ⅱ(※B)	保育園での実習を行う。(保育実習Ⅲとの選択)	3後	80				○			○	○	○
	○		保育実習Ⅲ(※B)	保育園以外の児童福祉施設での実習を行う(保育実習Ⅱとの選択)	3後	80				○			○	○	○
○			教育実習Ⅱ	幼稚園での実習を行う。	3前	80				○			○	○	○
	○		保育現場実践A(※C)	保育現場で、保育士としてすぐに使える製作等を行う。	3通	60			○		○			○	○
	○		保育現場実践B(※C)	保育現場における、行事等について実践的に学ぶ。	3通	60			○		○			○	○
	○		保育実習応用A(※C)	保育実習で必要となる日誌の書き方等について、深く学ぶ。	3前	30			○		○			○	○
	○		保育実習応用B(※C)	保育実習で活用できる指導案およびそれに基づいた製作等を行う。	3通	60			○		○			○	○
	○		福祉行財政と福祉計画(※D)	福祉についての行政サービス・福祉計画について学ぶ。	3前	30		○			○				○
	○		相談援助演習(3年次分)(※D)	ロールプレイングを交えながら、社会福祉士としての基礎・応用・実践についての知識・技術を学ぶ。	3後	30			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		社会保障（※D）	我が国の医療、介護、年金、労働保険な社会保障の各制度の基本的な仕組みを理解する。	3通	60		○			○			○		
	○		人体の構造と機能及び疾病（※D）	人体の構造及び疾病について学ぶ。	3前	30		○			○				○	
	○		社会調査の基礎（※D）	社会調査の意義と目的及び方法の概要、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報について、量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。	3前	30		○			○				○	
	○		保健医療サービス（※D）	保健医療に関する制度やサービス体系を理解し、保健医療と福祉の包括的支援のために必要な連携・協働についての知識を習得する。	3後	30		○			○				○	
○			卒業研究	人形劇・オペレッタ製作の理論・実技について学ぶ。また実際に製作し、発表する。	3通	60		△		○	○	△		○		
○			音楽Ⅲ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。楽典の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	3通	90				○	○				○	
○			施設実習指導	施設実習に向けた指導を行う。	3通	60		○		△	○			○		
○			接遇マナーⅡ	社会人として必要とされるマナーについて学ぶ。	3通	15			○		○				○	
		○	公務員講座B（自由選択）	保育士公務員試験対策に関する指導を行う。	3前	15		○				○			○	
合計					93	科目	3145単位時間（									単位）

選択必修科目は、※A群、※B群中のいずれか1科目を選択。また、※C群か※D群のどちらかの群を選択。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
ア. 当該学科の所定の科目をすべて履修していること。 イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 各授業科目の授業回数数の3分の2以上出席し、Cランク以上の評価を取得する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週